

自ら学び主体的に判断し行動できる生徒の育成
～確かな学力・豊かな人間性を育む教育活動～

小田原市立千代中学校

1 研究の目的

本校は学校教育目標を「自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒を育てる」とし、これからの時代をたくましく生き抜き、未来を拓く力を育成することをめざし、教育活動に取り組んでいる。

令和4年度の学校経営計画（グランドデザイン）の中から、中心課題として3点を挙げ、その具現化をめざし研究を深めた。

2 研究の内容

(1) 社会力の育成と校内研究の推進

- ・自己の周りすべての人・物・出来事と関わる力、コミュニケーション能力の育成をめざすこと
- ・インクルージョンの視点による生徒一人ひとりの理解、能力や可能性の伸長を意識すること
- ・校内研究組織による「学びあいの学習」を大切にした授業づくりと評価の研究の充実を図ること



(2) 自己実現と社会貢献を支えるための地域一体教育、「地域とともにある学校づくり」の推進

- ・生徒一人ひとりが自己有用感を感じられるような場面設定（体験）と価値づけ
- ・地域の一部としての千代中学校ならではの教育活動の創造と、まちづくり委員会等との連携
- ・SDGsを理解し、深め、社会への提案や生き方を考える「総合的な学習の時間」等の充実
- ・スクールボランティアが関わる活動等、生徒・職員・保護者・地域の協働活動の設定
- ・学校評価（生徒評価、教職員評価、学校関係者評価）の充実（活用）

(3) 健全な精神、健全な身体、豊かな心を育むための校内環境整備の推進

- ・生徒が安心して温かい気持ちで生活が送れるような校地内の環境整備
- ・折り紙、園芸、図書、読み聞かせ、の各スクールボランティアによる活動支援
- ・ICTを活用した授業の充実に向けたデジタル環境の整備



3 事業の成果

上記（1）～（3）を重点課題として研究に取り組む中で、次のような成果を得ることができた。

(1) について

校内研究組織による計画的な研究や研修により、学校全体で授業改善に取り組むことができた。3年計画で研究を進める最終年度として、特に、主体的に学習に取り組む態度をどのように育て、どのように評価するのかという課題に向き合い、学校として共通の考え方を持てるように学んだ。

内容の改善を重ねた「千代中学びプラン」や各教科で統一して取り組んだ単元計画表の単元開始時ごとの配付等を通して、全教科で生徒自身が見通しを持って学習する環境を整えることができた。

ことや、各単元の「振り返り」を大切にすることで、生徒自身が現状を把握し、そのうえで自己調整や粘り強く学習に取り組む姿の向上が見られたことは大きな成果であった。

また、周りの人と関わる力（コミュニケーション能力）の育成をねらいとして、全職員で「学びあいの学習」を大切に授業づくりを意識して行うことができた。このことは、生徒が生涯にわたり幸せに過ごすための「社会力」を身に着けることにつながっていくと信じ、今後も意識していきたい。

(2) について

「地域とともにある学校づくり」を強く意識して、様々な教育活動を進めることができた。コロナ禍ではあったが、ここ数年控えざるえなかった地域との連携を、慎重に、できる限り取り戻していくことにより、学校・家庭・地域がそれぞれ信頼しあえる関係性の構築につなげていきたいと考えた。

まちづくり委員会等との連携・協力により、生徒・教職員・保護者・地域の協働活動を意図的に設定した。特に地域に出て、校外で中学生が活動することが効果的であろうと考えた。

自分の住む地域をきれいにしようという気持ちで美化清掃活動へ参加したり、自分の住む地域の災害時対応を知ろうという気持ちで地域の防災訓練へ参加したり、地域の農産物について実体験から学ぼうという気持ちで、稲作をはじめとする農業体験を行ったり、ほかにも学校の外での活動の場を増やしていくことができた。生徒が心に気持ちをつくり、その心が動くような「体験」の場を、地域の協力をいただきながらたくさん設けることができたと感じている。それらの「場」

では共通して、周りの大人との暖かい関わりが見られたことは何よりありがたく、教員として、生徒が周りの人と関わりながら自ら体験する学習の大切さと効果を再認識できた。

(3) について



折り紙、園芸、図書、読み聞かせ、の各スクールボランティアと連携し、一方的に支えていただくのではなく、「ともに」「一緒に」「協働すること」を意識して関わりながら校内環境の整備等を実施することができた。生徒は、季節を感じられる四季折々の折り紙作品が、校内の階段踊り場や正門前に掲示されていることは知っているものの、実際に折り紙ボランティアの皆さんが掲示する場面を見て触れ合うことは皆無であった。そこで、折り紙が掲示される階段踊り場の掲示板をきれいにする生徒ボランティアを

募った。その後、集まった生徒たちと折り紙ボランティアの皆さんが触れ合いながら協働することができた。他にも、校地内に花を整備する際にも、生徒が積極的に参加することが多くなっている。今後も双方向の関わりにより、生徒も教師もボランティアさんも皆が気持ちよくなれる活動を継続していきたい。

本年度、未だコロナ禍ではあるが、慎重さを持ちながらも可能な範囲で（１）～（３）の課題に取り組んできた。学校教育目標の具現化のため、試行錯誤したことをしっかりと積み上げ、生徒の実態を踏まえたうえで、カリキュラムマネジメントに努めていきたいと考える。

